

「全鍍連」 2018年9月号 巻頭言

全鍍連 総務委員会担当副会長 山田 登三雄 (株)九州電化 代表取締役社長
「創立 70 周年を迎えます」



今から約 130 年前の明治 20 年(1887)に、わが国最初のめっき工場である宮川電鍍工場が大阪に誕生しました。その 2 年後の明治 22 年(1889)には、「東京鍍金職同業組合」の前身となる「東京鍍金業組合」が設立されました。組合員数はわずか 66 名であったと伺っています。

その後、大正 7 年(1918)に「大阪鍍金同業組合」、昭和 6 年(1931 年)に「名古屋鍍金業組合」、昭和 15 年(1940 年)には「京都鍍金組合」と日本各地に同業組合が次々と創立されました。

そして、全鍍連の前身となる「鍍金工業懇和会」が東京、大阪、関東、新潟、中部、近畿、神奈川、長野、兵庫の 9 組合が中心となり、昭和 22 年に設立されました。設立の背景は、組合員に労務加配米と配給資材を調達するため、全国組織を作る必要性があったからと伺っています。

更に、商工局単位でブロック別の連合会を作り、これを基にした全国組織とするため、昭和 23 年(1948 年)のめっきの日に全鍍連の前身となる「日本鍍金工業連合会」の創立総会が上野精養軒で開催され、翌年に会名が「全国鍍金工業連合会」に改称されました。

創立当初、資材は配給制がしかれており、組合員の共存・共栄のため、配給物資の申請や資材購入資金の調達に奔走されたそうです。特に統制下におかれていたニッケル不足は深刻であり、司令部に直接掛け合ったり、ニッケル対策全国大会が開催されていたと聞いています。

それから、70 年が経過しました。明治、大正、昭和と三つの時代を経て、来年の 4 月には平成が幕を下ろします。昭和のように、国が潰れるほどの大戦争は経験しませんでした。バブル崩壊とグローバル化に象徴される激動の時代だったと思います。しかし、諸先輩のご尽力により、日本国内においては最も歴史ある工業組合連合会として発展を続けることができました。歴代会長も 30 代を迎えるに至っています。



宮川電鍍工場看板

大阪府鍍金工業組合創立
100 周年記念誌より抜粋



大塚 寛治 初代会長



上野精養軒



「全国鍍金工業連合会」に改称 富士屋台旅館にて



冷戦終結



EU 発足



リーマンショック



アジア通貨危機



東日本大震災

現在、総務委員会では今年 11 月 21 日(水)に開催する創立 70 周年式典の準備を進めています。開催場所はホテルニューオータニ東京(東京都千代田区)です。

めっき工場の発祥の地である大阪鍍金工業組合は、先に昨年創立 100 周年を迎えられました。三部構成で非常に盛大な式典でした。愛知県鍍金工業組合は 3 年後に創立 90 年、東京都鍍金工業組合は来年 130 年の歴史を刻まれます。

創立 60 周年を迎えた 10 年前は、リーマンショックの影響により、めっき業界は戦後最大の不況の波をかぶりました。戦後最長ともいわれている好景気にある現在、この景気に気を緩めることなく創設時当初の共存・共栄の精神に立ち返り、めっき業界の更なる発展を目指すためにも、是非、創立 70 周年記念式典には多くの皆様にご臨席いただきたいと思っております。盛大な式典が挙行できますようにご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。